Aグループ 新さん、神谷さん、鳥居さん

条例の見直し

・もし条文を変更する場合は？

↓

- ・現行では、市長が必要な措置、市民参加での検証の結果に基づいて
- ・今は議会の過半数で決議できる
- ・最高規範なら改正は重くなくてよいのか？

↑

・上位の法律によってできないのでこのまま

・ブルーの囲み

メンバー(検証会議)

幅広い年代から

働き盛りの男性も 50代

半数は女性

条例の意義・効果

必要なのか？

- ・まちづくりには協働が必要
- ・市民が参加する上で必要
- ・今までは市役所がすることだったが、今では市民が主体となる時代だから必要

どうして必要か？

- ・何かする時にお金がかかる
- ・行政がやれないことを行う時に、補助金が出ることもある
- ・市民活動の提案ができるのは、まちづくりが活性化することにつながる

理念の押し付け？

- ・基本的な心構えだから、押し付けだとは思わない
- ・市民活動の位置づけとなるもの、ルール

わかりやすさと認知度の向上

いつから？

- ・子ども向けのわかりやすいパンフレットがあると良い
- ・子どもの頃から意識付けすると良い
- ・中学生が理解できるように

子どもに誰が伝える？

- ・先生？
- ・ボランティア？ ←これがよいかな
- ・市役所の職員？

大人は？

- ・先生への研修が必要
- ・親？
- ・地域の人には？
- ・町内会会長

パンフレットの配布

- ・平成22年に配布されたが保存されていない。回覧板の表紙に載せる(1年間)

両方の意見

- ・条文そのものを変えた方がよい
 - ・もっと文章が短い方がよい。文字が多すぎる
- ↑
↓
- ・条文はそのままでもよいから簡単でわかりやすい要約版をつくると良い

その他

- ・市の行事には必ず市民憲章が唱和されている。それとの関連性はどうか？
→そうなってほしい
- ・市の行事に市民憲章とともに伝えられると良い
- ・「まちづくりの木」の絵だけでも紹介できたら良い

Bグループ 荻野さん、桐生さん、林さん、鈴木さん、酒井さん

市政運営

- ・当たり前のことが書いてある。
↓
- ・でも条例全体に言葉が難しい
↓
- ・難しい言葉ではあるがこのままで良い
- ・全体にやさしい、わかりやすい言葉で書いたものを作ると良い(冊子、チラシ)
 - ・例えばすべてを平仮名で、柔らかい言葉で別冊としてつくってみる
 - ・子ども用、老人用、ひらがなで
 - ・具体例を書く必要がある
 - ・絵本、マンガ等で表現しても良い

条例の見直し

- ・検証会議が本当の見直しにつながるのか？→予定表を見るとそうでもない
- ・つながっていない、ポーズだけのように感じていた(始めから)
- ・第8章26条→この会議が見直しの策定会議につながるのか？
- ・26条は条例見直し・改正のための付属機関の根拠になるのか？
- ・こういう会議の議長は住民の代表が望ましい
- ・見直しは、そもそも5年は早い。社会の変化や最高規範なら。
- ・この条例は「安城市の憲法」として「最高規範」との位置づけだが、5年を超えない期間に「憲法」「最高規範」と言えるものを検証すべきものか？
- ・方法として難しすぎる。表現が難しすぎる。
- ・市民参加の会議だけでは片寄る。
- ・アンケートだけでもよい。
- ・片寄る⇔やり方によっては片寄らない

条例の意義・効果

- ・具体的な必要性に迫られていたのか？新潟市は合併がきっかけであった。安城市にあるのか？
- ・交流センターの参加グループにきまりがあり、政治団体は入れないのは不公平。
- ・条例があることによって夕張の破綻のようなことは市(行政と議会)の責任だが、安城市で同じようなことが起こった時、誰が責任を取るのか？

わかりやすさと認知度の向上

- ・附則に入っているということは、条例自体が本義を果たすために周知・認知が必要であるということ条を条例自身が求めている。
- ・低い認知度の中で決められたことの正当性は？
- ・あんき会が向上のための活動をしている。
- ・知っている人が少なければ少数支配になるわけで、認知の目標もなく周知活動をしなくても効果的でない。
- ・認知度確保の方法は？
- ・どのような方法ではなく、認知度の目標が必要ではないか。
 - 有権者の3割。8～9%は低すぎる。
 - 期間を定めるのがいい。

Cグループ 小森さん、藤谷さん、森さん

条例の見直し

- ・市民の定義変更
- ・現状では不安
- ・外国人、市外住民は除く
- ・最高の位置は変→条例は全て横並び
- ・他の条例に縛りをかけることは自治法違反
- ・審議会委員10人、15人に変更は変
- ・まちづくりによくしている力は大いに賛成です
- ・市民参加条例、市民協働条例、多文化共生条例、議会基本条例 条例すべての見直しを？
- ・見直しにはより多くの市民の意見が必要
- ・ただ、条例づくりには反対です

■ ⑦条例の見直し

現行の条文に何ら問題はないと思います。

自治基本条例も他の条例も同じ改正手続き
で何ら問題はないと思います。

条例の意義・効果

- ・悪影響、マイナス効果
- ・認知度が低いということは効果も少ない
- ・治安が不安定
- ・交通事故が多い
- ・警察・消防の出動が多い
- ・少数意見は無視されている
- ・働く世代の声が取り入れられていないのではないか
- ・条例によって、あんき会、町内会等がやる気になって行事をした
- ・効果あり
- ・ボランティアを大事にする
- ・安城市民憲章を大切にす
- ・安城を本当に良くする仕組みづくりが大事

■ ⑧条例の意義・効果

自治基本条例は、自治の基本事項を定める条例です。
自治基本条例で定めた事項を具体的に実施するには、
個別条例や施行規則、実施計画等、更に具体化して実施されます。
それが、安城市市民参加条例であり、安城市協働に関する指針、
指針をさらに具体化したものが、安城市市民協働推進条例であり、
安城市市民協働推進計画、安城市市民協働推進基金、
基金を利用して実施されるのが、「安城市市民活動補助金」です。
そして、この補助金を利用して実施されたのが、
「日本将棋連盟安城支部」主催の「安城七夕ふれあい将棋大会」です。
以上が、第1回目の会議で企画政策課から説明があった内容であり、
成果の一部です。

わかりやすさと認知度の向上

- ・不明点が多く、その解明
- ・大切→認知度はその次
- ・認知度を高めた上での見直しが必要
- ・認知度を高めるためにウェブ手段のPRを積極的に
- ・よりわかりやすく、より簡略化して、理念を明確に伝える

■ ⑨条例のわかりやすさと認知度の向上

自治基本条例に限らず、行政による広報は
お金がかかる割にはその効果は限定的に成らざるを得ません。
情報の伝達は「ロコミ」に勝るものではありません。
若い人にとっては、SNSによるロコミ（シェア）です。
これは、行政が最も不得手とする手段であるためです。
通りいっぺんの行政の情報をシェア（拡散）できるのは市民です。

■ ⑨条例のわかりやすさと認知度の向上

他市の事例で恐縮ですが、お隣の刈谷市は、
「共存・協働のまちづくり条例」を定め、
協働によるまちづくりを進めています。
その際、協働とは何？を解説するため、
こどもにも読んでもらえるような、別紙の冊子
「われら、森をよくし隊～「きょうどう」が、未来を変える～」
を作成しています。

その他

- ・地域コミュニティ活動の活性化は大事である(条例内容に関わらず)
- ・安城市をよくするために
- ・あんき会、あんねっと、町内会
- ・現在の良い活動は続けてください
- ・町内会への援助を市として大きく
- ・自由裁量権を持たせる 条例とは別枠